

修 士 論 文 要 旨

学籍番号 20GH102 第 号

氏 名 王 瑤

専攻 (コース : 文化芸術)

論文題目

『順生論』の順生思想と中庸思想の比較研究

『順生論』では、「天の命を之れ性と謂ひ、性に率ふを之れ道と謂ひ」も繰り返し現れ、天の命を之れ性と謂ひ、つまり性は天から与えられた内在的な本質である。性に率ふを之れ道と謂ひのは、天から与えられた本性に従うこと、あるいは潜在的なことを道と呼ぶ。

「順生論」の全書は3つの大部分に分けられ、60の章がある。第一部の天心は12章で構成され、第二部分の社会は24章で構成され、第三部分の自分も24章で構成されています。各章には独自のテーマがありますが、行文は互いに結びついており、各章と前後文はつながっています。前の2つの部分の天心と社会は、巨大なテーマのように見えますが、すべて個人の角度から出発して、また経典を引用して、面白くて、読むのがとても面白いです。張中行の行文はわかりやすく、辞書を使うことが多いが、よくない典故があればよく説明されるので、難解な感じはしない。本論文では、各部分をお中庸の思想と比較しながら、張中行の順生思想の本質に迫ろうとする試みをする。そして、当時の時代背景が張中行の思想にどうな影響を与えたかを探ってみたい。